
タダでメシ食う交渉術

ルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タダでメシ食う交渉術

【Nコード】

N6139Y

【作者名】

ルト

【あらすじ】

ぐだぐだしながらタダメシ食うため、なんやかんやと交渉してみるのが。会話体。

「昼飯おごってくれ」
「ざけんな？」
「じゃあジュースだけでもいいから」
「自分で買え」
「無理だ。今月ゲーム買いすぎた」
「自業自得だろ」
「あの百円菓子でいいから」
「断る」
「むう」

§

「ン……いかん、十円足りん。あるか？」
「あん？　しゃーねえな」
「おお、助かる。……ふむ、十円はありが」
「ん、なんか言ったか？」
「いや、気にするな。恩に着る」
「おう、存分に感謝しろ」

§

「喉が乾いて死にそうだ、ジュースおごってくれ」
「干からびて死ね」
「ひどい」

§

「……ワゴン品と馬鹿にすれば、なかなか素晴らしい掘り出し物じゃないか」

「あー、前から欲しいつつつたなそのゲーム。二世代前のゲーム機じゃねえか」

「名作は朽ちぬ。……ぬああ、五百円、この五百円が……」

「そんなにスツカラカンか」

「もちろんだ」

「威張って言うな。たく、ほれ、五百円くらいなら出してやるよ」

「マジか、お前最高だな、愛してる」

「五百円で買える愛などいらん」

「ひどい。いやホントありがとう。じゃちょっと買ってくる」

§

「ジュース」

「断る」

「まだ言っていないのに」

§

「お疲れ。大変だな、こんな遅くまで」

「ぬー、うああ。お、リポディタン。こんな時間にどうした？」

「真っ先に品確認しやがったよこいつ。まあいい、それ差し入れた」

「おお、すまん。そういえばトイレ行くのも忘れてた」

「お前……いや、大変だな」

「まあ、ね。なんとか片付けて、早く続きをやりたいたいよ」

「こないだのゲームか。相変わらずだなあ、お前」

「ふ、当然だ。そっちは珍しく優しいな」

「珍しく言うな」

§

「……んー。基準が分からん。値段じゃないのか？ 気分か？ 私への愛か？ よし、試してみよう」

§

「愛してる」
「なんだお前」
「ジュースおごってくれ」
「去いね」
「古語!?!」

§

「百円だと思ったら五十円だった件について」
「ベタだな」
「すまん、五十円」
「またか、スカンピン基準で買い物すんなお前」
「助かる、愛してる」
「十分の一かよ、安いなお前の愛」
「心配するな、私の愛は百八まである」
「煩惱の美称か」

§

「昼飯おごってくれ」
「断る」
「愛してる」
「ノーサンキュー」

「うん」

§

「まったく基準が分からん。何が違うんだ？ ……あれ、もう月半ばか。時間が流れるのは早いいう。 ……ん？ うん。あれ？ ……お、オアアーツ！ わ、忘れてた！ 明日発売日じゃないか！ 予約解禁日から三ヶ月って、ああ、抜かった！ うわあ、二円しかないのに ……。ああ、うわあ ……。やばい、タンス預金、なんて、ないよなあ。うわあ、参ったなあ ……うわあ ……」

§

「ダメだ。こうなったら、もう、ふんだくるしかない ……ッ！」

§

「 ……こういうのは間が大切だ。ふう、よし。リラックスして、気が緩んでる時を狙おう。 ……負けられん」
「なにに負けるって？」
「うえひっ！？ いやいやいや、なんでもない！？ いつの間に来たんだお前！」

「今だよ」

「そうか。 ……そうか。うん」
「なんだよ？」

「 ……いや、なんでもない」

§

「一億円貸してくれ」

「は？」

「一億」

「なに言ってるんだお前」

「ダメか？ じゃあ一千万円でもいいぞ」

「じゃあじゃねーよ、アホか」

「仕方ない、五千万で妥協しよう」

「妥協してねえ、あげんな」

「まだダメか、なら一千万でどうだ」

「どうだ、じゃねーよ。戻ってんじゃねーか」

「いいじゃないか、そのペットボトルを毎日買って二年になるが、死ぬまで続ければ、えっといくらだ？ まあたぶんそれより安いぞ」

「生涯累積と比べてもな」

「よし分かった、なら、せめて一万円」

「一気に下がったなオイ」

「頼む！ 一万円！ 必ず返すから！」

「げ、本当に借りたいのか。なにに使うんだよ」

「必要なんだ、すぐに！」

「……たく、いいな、今回だけだぞ。必ず返せよ」

「ああ、ありがとう。ホントありがとう」

§

「……ふふふ。『大きい数字を出して価値を混乱させる作戦』は成功だ。これで、限定版スペシャルボックスは安泰だ。ふふふふふ」

§

「というわけで、確かに返したぞ」

「受け取った」

「ついでに昼飯おごってくれないか」

「自分で買え」
「……あれー。いいじゃん、一万に比べたら些末なものじゃないか？」
「些末と言っなら自分で払え」
「ちえ」

§

「やつほー」
「おう」
「やあ」
「ねね、悪いんだけどさー、お昼おごってくれない？ 今月ピンチなんだ」
「む、ああ、分かったよ」
「なにい!？」
「やたつ、ありがとう助かるー。また何かあったらいつでも言うからね。バイビー」
「はあ、やつと借りひとつ返したか……」
「おい、納得いかんぞ。なぜあいつはよくて私はダメなんだ」
「あいつには借りがたくさんあってなあ、頼られるチャンスを狙って感謝を示さない」と
「ずるいぞ、不公平だ。私にも感謝を示してくれ、そして昼飯おごってくれ」
「お前に感謝を示す理由がない」
「……むっ」

§

「ふう、やつと明日で給料日。今月調子に乗りすぎたなー。……にしても、相変わらず二人一緒とか。愛されてるなあ、あの子。羨ま

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6139y/>

タダでメシ食う交渉術

2011年11月18日13時23分発行